

「モノづくり」に徹する業界のリーディングカンパニー



トタニ技研工業は、袋を作る機械＝製袋機を製造するメーカーです。

1961年に法人化以来、半世紀以上にわたってプラスチックフィルムの袋を作る製袋機メーカーとして、業界をリードする製品を提供し続けてきました。トタニ技研工業の製袋機は、国内だけにとどまらず、すでに世界60か国以上で活躍し、世界的な大手企業に製袋機を収めるなど高い評価を得ています。売上金額でもプラスチックフィルムの製袋機メーカーとして日本ではトップであり、世界的にみてもトップクラスの売上高を誇ります。これからもトタニ技研工業は「モノづくり」に徹する業界のリーディングカンパニーとして、富を創造し、社会に必要とされる企業として歩みを進めていきます。

INDEX

会社概要



資金力や輸出先、各工場、営業所所在地・連絡先など基本企業情報のご案内

企業理念



社会に貢献でき、富を創造する企業であり続けたい～トップが語る経営理念～

トタニの製袋機について



独自技術へのこだわりから生まれたトタニの製袋機

海外拠点のご案内



京都のトタニから世界のTOTANIへ。海外5カ所の拠点、代理店の情報をご案内

会社沿革



京都で創業して半世紀以上。これまでのトタニ技研工業の歩みをご紹介

組織図・社員数推移



独自の「モノづくり」を支える社員数や組織についてご紹介

売上実績推移・特許



売上高の推移や取得済み特許など、業績関連情報を掲載しています

アクセスマップ



京都本社と各工場の所在地や電話番号、アクセスマップをご案内

会社概要

社名	トタニ技研工業株式会社
本社所在地	〒601-8213 京都市南区久世中久世町5-81
TEL	(075)933-7610
FAX	(075)933-7602
役員構成	代表取締役会長 戸谷 幹夫 代表取締役社長 戸谷 隆一 取締役設計本部長 益枝 廣
営業種目	自動製袋機設計製造及び販売、自動製袋包装機設計製造及び販売
創業	1952年
設立	1961年（法人）
資本金	1億円
売上高	116億円（2025年1月期）
従業員	219名（国内）海外202名（2025年1月期）
本社工場敷地	約6,816m ²
本社工場建物	約3,990m ²
海外輸出先	アメリカ、韓国、中国、カナダ、タイ、インド、インドネシア、トルコ、メキシコ、台湾、ブラジル、ドイツ、フランス、オーストラリアなど60カ国以上
工場	本社工場 : 〒601-8213 京都市南区久世中久世町5-81 西第1工場 : 〒601-8213 京都市南区久世中久世町5-15 西第2工場 : 〒601-8213 京都市南区久世中久世町5-15 南第1工場 : 〒601-8205 京都市南区久世殿城町106 東工場 : 〒601-8213 京都市南区久世中久世町4-44
営業所	【東京営業所】 住所：〒170-6045 東京都豊島区東池袋3-1-1 TEL:03-5979-2585

企業理念

トタニの経営方針の中核は「人間中心の経営」という理念。

創業以来、トタニ技研工業株式会社（以下トタニ）は環境・省エネに貢献できることを念頭においたモノづくりに徹し、世界中の皆様にお買い上げいただける「最高性能の製品を創造する」ことを私たちのモノづくりの原点としてきました。

いま、製袋機でつくられるパッケージングの分野でも、いかに少ない資源で、少ないエネルギーで、リサイクルやリユース性の高い製品を生み出すかが社会的責任の高い課題になっています。環境保護や二酸化炭素排出量削減に有効なプラスチックフィルム袋に社会の注目が集まるなかで、トタニもまた製袋機を提供するだけでなく、省資源、省エネルギー、環境への負荷低減に有効なトタニ独自の「角底袋（ボックスパウチ）」を独自開発し、その普及にも注力しています。

こうした先進的なモノづくりの取り組みを支えるのは人材です。私は“技術は人の中に残っていく”と思っています。そしてこれからも新技術を創造し、残していくたいと考えています。そのためにも「人を大事にすること」を経営戦略上の最重要課題に据え、社員にとってやりがいがある職場、誇りを持って楽しく仕事ができる企業を目指しているのです。

この「人間中心の経営」という理念を基本に、トタニが経営方針として掲げているのは、

- 環境、エネルギー問題解決に貢献する「モノづくり」
- 無駄を省き、真の価値を自ら創造する
- 「ものまね」をしない独自開発技術で、常に最高性能を目指す
- 自己の利益追求ではなく、将来の「モノづくり」につながる技術開発を行う
- 社内・社外に対しフェアな企業姿勢で、ブランドを守り、信頼を守る
- フラットな組織で権限を委譲し、管理を少なくする

という方針です。私は社員にモノづくりのおもしろさ、誇りを感じることができ、目標に向かって頑張れる職場環境を提供することが経営者として重要な責務と考えています。

信頼関係の重視とフェアな仕事をすることもトタニの重要な経営方針。

トタニではたとえ30年以上前の機械でも修理やメンテナンス、安全性向上のための改修を行っています。これは一見すると、利益を圧迫する余分なコストであり、多くの企業ではこのような余分なコストはカットされる傾向にあります。

しかし、こうしたコストをカットしてしまえば一時的に業績は上がるものの、長期的に見れば企業としての信頼低下につながりかねません。特に製袋機のようなニッチな業界では、お客様との強い信頼の醸成こそが重要なのです。弊社の技術サービス部門などでは担当者指名でお客様から連絡が入ることも多く、社員はそれを誇りに思っています。効率を重視する経営ではこのような信頼関係はまず築くことはできないでしょう。同時に協力企業様に対する「嘘をつかない仕事」もまたトタニの大きな経営方針です。こうした企業姿勢と人が中心の経営理念が、世の中に役立つ機械をつくる企業、世界で役立つ企業としての成長の種まきとなっていくと思っています。

これからも世の中に貢献できる企業として新たな「挑戦」を続けたい。

トタニは一貫して製袋機開発の技術を磨き、フィルムロスを減らし、製袋速度を向上させてきました。同時に壊れにくく、メンテナンスも容易で、継続的に生産活動をしてもらえるように改善を重ねています。これらは言うまでもなく生産時の無駄なエネルギー消費を減らすことにも貢献しています。

当社の製袋機が生み出す袋は長期保存性に優れ、医療や安全衛生に貢献する社会的な必需品です。高品質で高い生産性を保ちながら、世界中の人々のお役に立っています。今後はさらに社会貢献性を高めるために、フィルム素材の研究にも他分野の企業とともに取り組んでいくこととしております。

本来、トタニは製袋機のメーカーではありませんでした。1952年の創業時は海産物加工機械の製造・販売企業だったのですが、ドイツ製の製袋機の修理を依頼されたことを縁に、製袋機の開発、製造への「挑戦」を始めたのです。その後、国産初のラミネート製袋機や世界初レトルト袋製袋機、世界初の3サーボ・可変シール制御方式国際特許製袋機、独自のボックスパウチ製袋機などを次々と世に送り出し、今に至ります。

製袋機で求められる薄いプラスチックフィルムの高速加工制御技術について、異分野の企業からも共同開発のオファーがあるほどトタニの製袋技術は注目されています。私たちはこれからも蓄積してきた基本技術をもって、どこにもまねできない製品を生み出す世界のトップ企業として研究・技術開発を続けて参ります。



トタニ技研工業株式会社

代表取締役

戸谷 幹夫

Newsweek誌／Worldfolio社インタビュー記事にみる、トタニの未来に向けた経営ビジョン。

Newsweek

Original article published in Newsweek on March 24th, 2023. Written by the Worldfolio

「Think Sustainable」持続可能な未来に向けた包装機械

トタニ技研工業は、製袋機業界のリーディングカンパニーとして、環境に配慮したソリューション開発に力を入れている。

過去数十年間、アジア・欧米地域の競合企業との激しい競争にもかかわらず、日本企業は多品種少量生産の特徴を活かし、ニッチな製造分野で優位性を保っている。包装機械のトップメーカーである同社は、独自開発の技術とアフターサービスを通じて、他社には提供できないサービスを開拓している。

「長年、ニッチな分野に注力し、世界市場でナンバーワンの地位を獲得しました。過去50年間で、外部委託せず自社で新しい技術を開発し続け、現在の製品はその技術蓄積の結果として生まれたものなのです」と語るのは代表取締役社長の戸谷隆一氏。

アフターサービスには、日本独自のホスピタリティ精神である「おもてなし」が色濃く反映されている。トタニにとって、30年以上続く可能性のある機械の設置は、最終目標ではなく、サービスの始まりでしかない。会長の戸谷幹夫氏が語るように、販売後もサポートすることこそが大きな使命なのだ。「私たちの成功の本質はお客様の成功にあると信じています。コンシェルジュのようなサービスを提供することを目指すことで、お客様のニー



ST-30



「新素材に関しては、20～30年前のテストデータが蓄積されていることが強みのひとつ」

トタニ技研工業株式会社 代表取締役社長 戸谷 隆一（左）、代表取締役会長 戸谷 幹夫（右）

ズを詳細に聞き、抱える問題を解決することができます」

同社は、このようなアフターサービスへのこだわりと、IoTやビッグデータなど新技術の可能性を活かし、データ通信システム（DCS）を開発している。DCSでは、大量のデータをリアルタイムで提供し、効率化や不良原因の追究、機械稼働状況の把握が可能になる。「機械やオペレーターを扱う際、ミスは避けられません。DCSシステムでは、ミスが起った際、何が起きたかを追跡し確認できます。このデータ追跡を活用することで、今後の生産品質向上が見込めるのです」

顧客と密接な関係を築くことで、パッケージの小型化や環境配慮型ソリューションへの要求に対応できている。同社は、多額のR&D投資を行い、データの力を活用して、



環境問題への配慮から、トタニのリサイクル可能な製袋機は、欧米の顧客からの要望が高い。「生産性やスピード向上のための特殊技術を蓄積しており、環境に優しい素材という新たな需要に対応できます。新素材については、20～30年前にさかのぼるテストデータを蓄積していることが大きな強みです」戸谷社長は語る。

こうした機械の開発により、同社の売上は近年3倍に増え、2010年の40億円から、2019年には120億円（8900万ドル）に成長した。だが、利益だけでなく、持続可能な社会への貢献も重要な目標である。

「リサイクル可能な素材や生分解性素材など、新素材の開発に力を入れてきた歴史がある」と戸谷幹夫会長は言う。「そういう意味で、私たちは長らくSDGs（国連の持続可能な開発目標）の視点を経営に取り入れてきたと言えます。"Think Sustainable"を企業スローガンに掲げ、持続可能な経営を追求し、製袋機を通じて持続可能な社会に貢献することを決意しています」



- Newsweek International (March 31 - April 07 2023)
- 「Worldfolio」グローバルサイト：Totani: building pouch-making machines for a new green manufacturing era

インタビュー記事はQRコードからご覧ください。



トタニの製袋機について



独自技術の開発から生まれたトタニの製袋機。 だからこそトタニは独自開発技術にこだわった。

製袋機とは、ロール状のプラスチックフィルム（原反）を引き出し、加工し、最後にカットして一つの袋にする機械です。袋の形はマーケット・ニーズによりさまざまですが、フィルムを曲げたり、切り分けたり、縦方向や横方向にシール（熱圧着）をしたりしながら袋を作る＝製袋していくことになります。多くの袋を効率よく美しく造る＝生産性を上げるには長いフィルムをすばやく正確に移動させていく必要があります。

しかし、強いとはいえばプラスチックフィルム（原反）は薄く伸びやすく、弱い素材。それゆえ、最終工程で精密にカットする技術や美しく、強いシール（熱圧着）を実現しつつ、生産性（製袋速度）を上げていく、という難しい課題が常につきまとっています。

こうした問題を解決していくかないと袋のサイズが微妙に違う、シールが弱くすぐ袋の口が開いてしまう、切り口に危険なバリがあつて怪我をする、といった品質の悪い袋ができてしまいます。

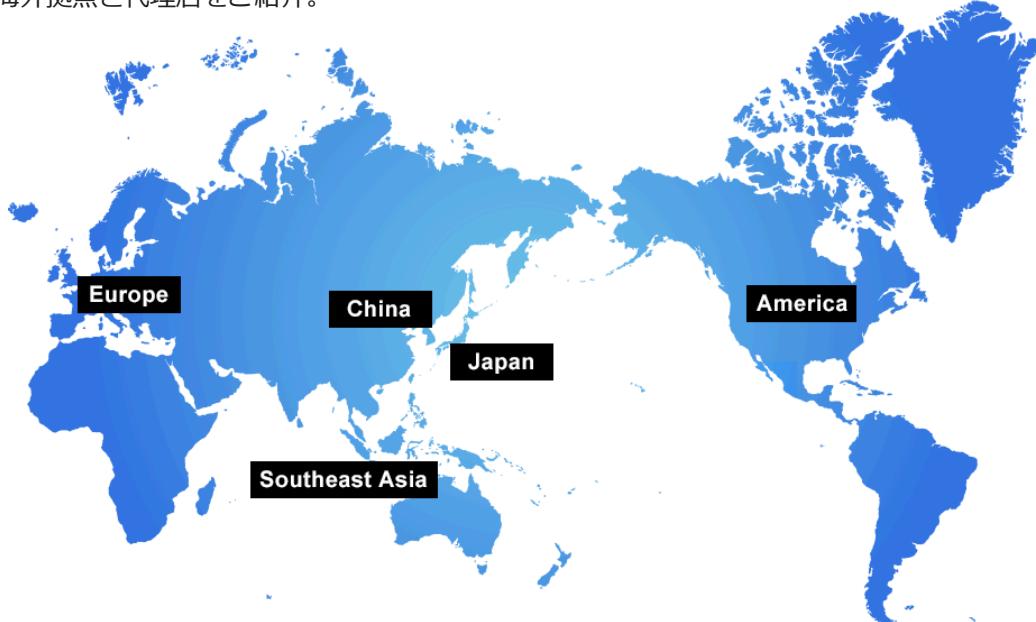
「高品質の袋を高速で造ること」は難しい。

トタニの製袋機は、こうした問題を独自の技術的工夫で解決してきました。例えば写真のBH-60Dは 三方シール袋を最大240ショット/分で造れる高速製袋機です。この製袋機には全長の長い機械でも正確にフィルムをコントロールできる、トタニ独自開発の「サーボモーター制御技術」と「テンションコントロール技術」、ヒートパイプによるヒーターの「温度管理技術」、強度が高く、美しいシールを実現する「シール時間設定機能」や、トタニ独自の「画像処理技術」、美しくバリのない袋の丸角(コーナーカット)を切り出す「リアルタイムシャー制御」などなど、多くの独自技術が詰まっています。さらにトタニの技術サービス担当者による製袋機の据付や入念な調整もまた、こうした独自技術をしっかりと支えているのです。トタニはこれからも独自開発技術にこだわった製袋機開発を続けていきます。

海外拠点のご案内

京都のトタニから世界のTOTANIへ

国内だけにとどまらず、すでに世界60か国以上で活躍するトタニ技研工業株式会社の製袋機。
その活動を支える海外拠点と代理店をご紹介。



トタニ技研工業株式会社

日本



京都の本社（Head office）です。研究開発をはじめ、製造や技術サービス、販売などを統括するまさにHead office！

〒601-8213 京都市南区久世中久世町5-81

(075)933-7610

(075)933-7602

2007gad@totani.co.jp

Totani America, Inc.

北米



Totani America, Inc. は北米と南米という広範囲なエリアをカバーする拠点。精鋭の販売とR&Dチームが万全のサポートを提供しています。

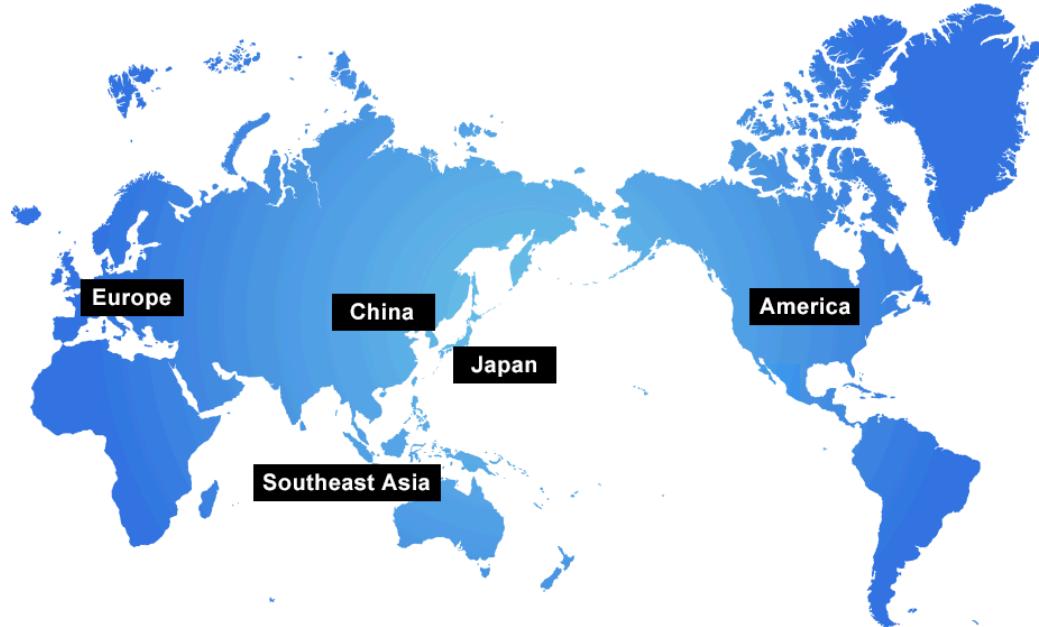
1701 Mid Valley Dr. De Pere, WI 54115

+1-920-632-7319

+1-920-632-7361

sales@totaniamerica.com

海外拠点のご案内



大连户谷技研工业有限公司

中国



中国の大連にある拠点。各種製袋機の海外向け生産拠点でもあります。

大连经济技术开发区生命二路2号

No. 2 ShengMing 2nd Road, Economical & Technical
Development Zone, Dalian, 116600, China

+86-411-8792-2338

+86-411-8792-2318

+86-411-8792-2198

2007gad@totani.co.jp

Totani Europe GmbH

ヨーロッパ



2009年3月に設立。ロシアからEU圏、中東まで広範囲なエリアをカバーする拠点として、トタニ製袋機の拡販や技術サービスの向上を目指します。

Bonnerstrasse 203b 40589 Düsseldorf Germany

+49 (0)211-7407-970

sales@totanieurope.com

海外拠点のご案内



Totani Asia Pacific Pte Ltd.

東南アジア



東南アジア地域の販売拠点です。

10 Anson Road #15-13 International Plaza Singapore
079903

+65-6220-2982

+65-6220-2982

2007gad@totani.co.jp

会社沿革

**1952年**

- 京都市下京区に海産物加工機械の製造・販売企業として「戸谷鉄工所」設立

**1956年**

- 製袋機の製造・販売を開始

1961年

- 法人化し社名を「戸谷技研工業株式会社」とする

1963年

- 旧本社（現：東工場）へ工場を移転

**1976年**

- 社名を「トタニ技研工業株式会社」とし、週休2日制を導入（当時日本の大企業でも導入例が少なく、先進性の高い企業と注目される）

1978年

- 業界初のマイコン制御機「LB-850型全自動ゴミ袋製袋包装機」が機械振興協会の第9回「自動化機械開発賞」を受賞
- 「付加価値配分制度」を導入し業績によりボーナスを計算する制度を開始

1984年

- 初の海外展示会としてアメリカの展示会へ出展。その後毎年海外の展示会に出展を実施

**1985年**

- CAD導入

1986年

- 西工場竣工
- 社内ネットワーク（LAN）導入
- UNIX漢字電子メール（社内限定自社開発）稼働
- 社内データのサーバーで一元管理開始

1987年

- 多品種・小ロット生産対応型生産システム
FMS(Flexible Manufacturing System)を導入・稼動
- 要員、設備、資金など製造に関連するすべての要素を統合して計画・管理する「製造資源計画」である
MRP(Manufacturing Resource Planning)を導入

1989年

- 南第一工場竣工

1990年	・ボイスメール導入
1994年	・京都産業技術振興財団「京都中小企業優秀技術賞」受賞 ・京都産業技術振興財団「京都中小企業優秀技術者賞」受賞
1995年	・「フレックスタイム制度」導入 ・「服装の自由化」導入
1997年	・社内にインターネットサーバを設置しホームページを開設
1998年	・西工場改築
1999年	・北米代理店のAMPLAS社に技術指導員として社員を派遣 ・基幹光ファイバーによる高速LANの導入
2001年	・旧図面総てをイメージデータに変換完了。ビデオ、写真データも総てデータサーバで保管完了
2002年	・戸谷幹夫 代表取締役社長に就任 ・アメリカ・ボストンでの語学研修制度を開始
2003年	・西第2工場増築
2004年	・北米での販売拠点となる「TOTANI AMERICA INC.」設立 (アメリカ・イリノイ州/100%子会社) ・新本社工場竣工
2005年	・現在の本社工場に移転 ・生産拠点として「大連戸谷技研工業有限公司」設立 (中国・大連/100%子会社) ・2次元CADから3次元CADへ全面移行
2007年	・「東京営業所」を開設
2009年	・EU圏の販売拠点となる「Totani Europe GmbH」を設立 (ドイツ・デュッセルドルフ)
2011年	・アジア圏の販売拠点となる「Totani Asia Pacific Pte Ltd.」を設立 (シンガポール)



2014年

- ・公益財団法人京都産業21「京都中小企業優秀技術賞」受賞
- ・公益財団法人京都産業21「京都中小企業優秀技術者賞」受賞
- ・中国・上海に販売拠点となる「大连戸谷上海办事处」設立

2015年

- ・「大連戸谷技研工業有限公司」新工場建設

**2016年**

- ・戸谷隆一 代表取締役副社長に就任

2017年

- ・同年1月期決算にて売上実績が100億円を超える

2022年

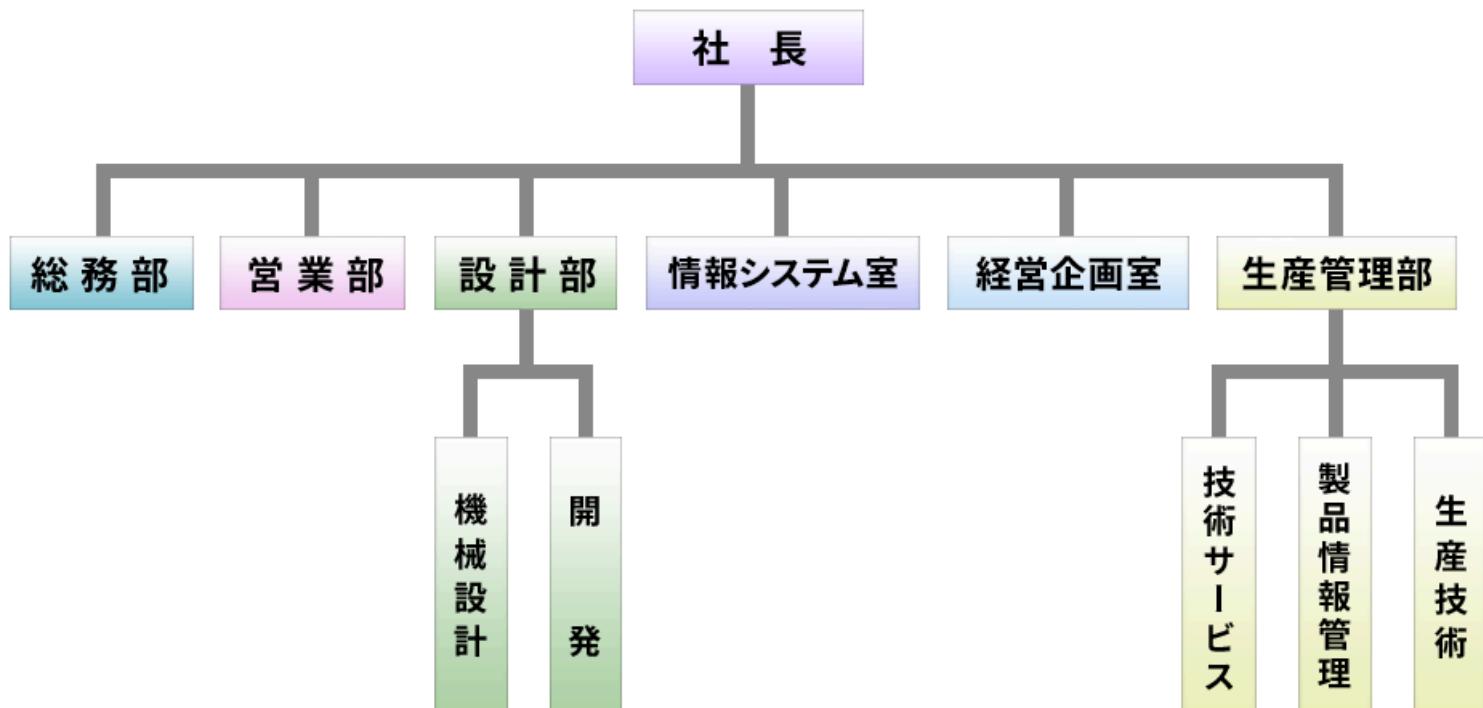
- ・戸谷隆一 代表取締役社長に就任

2023年

- ・EU圏の販売拠点「Totani Europe GmbH」が新拠点に移転

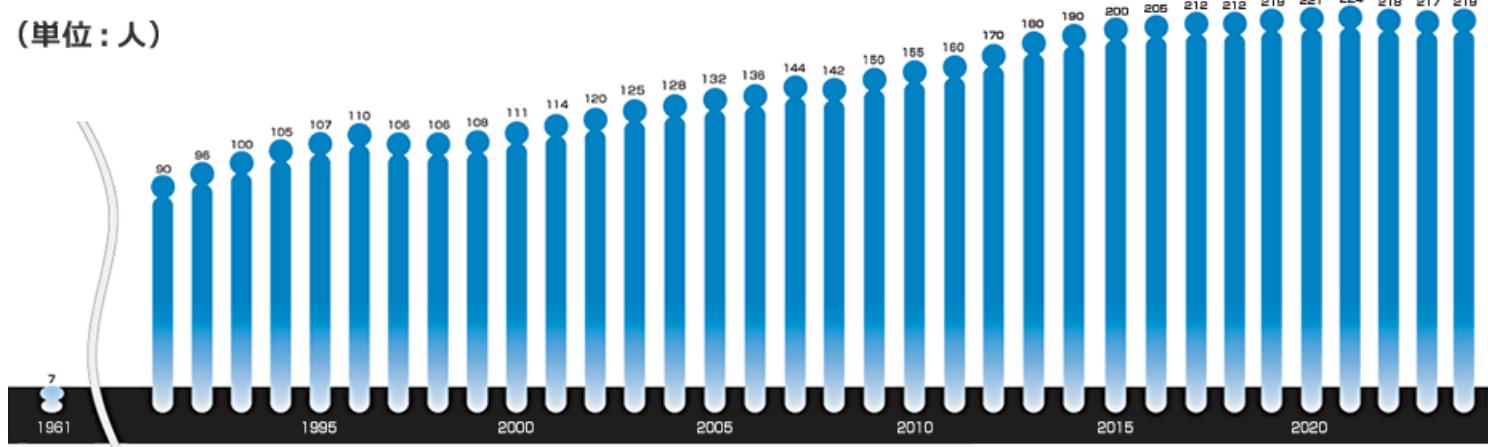


組織図

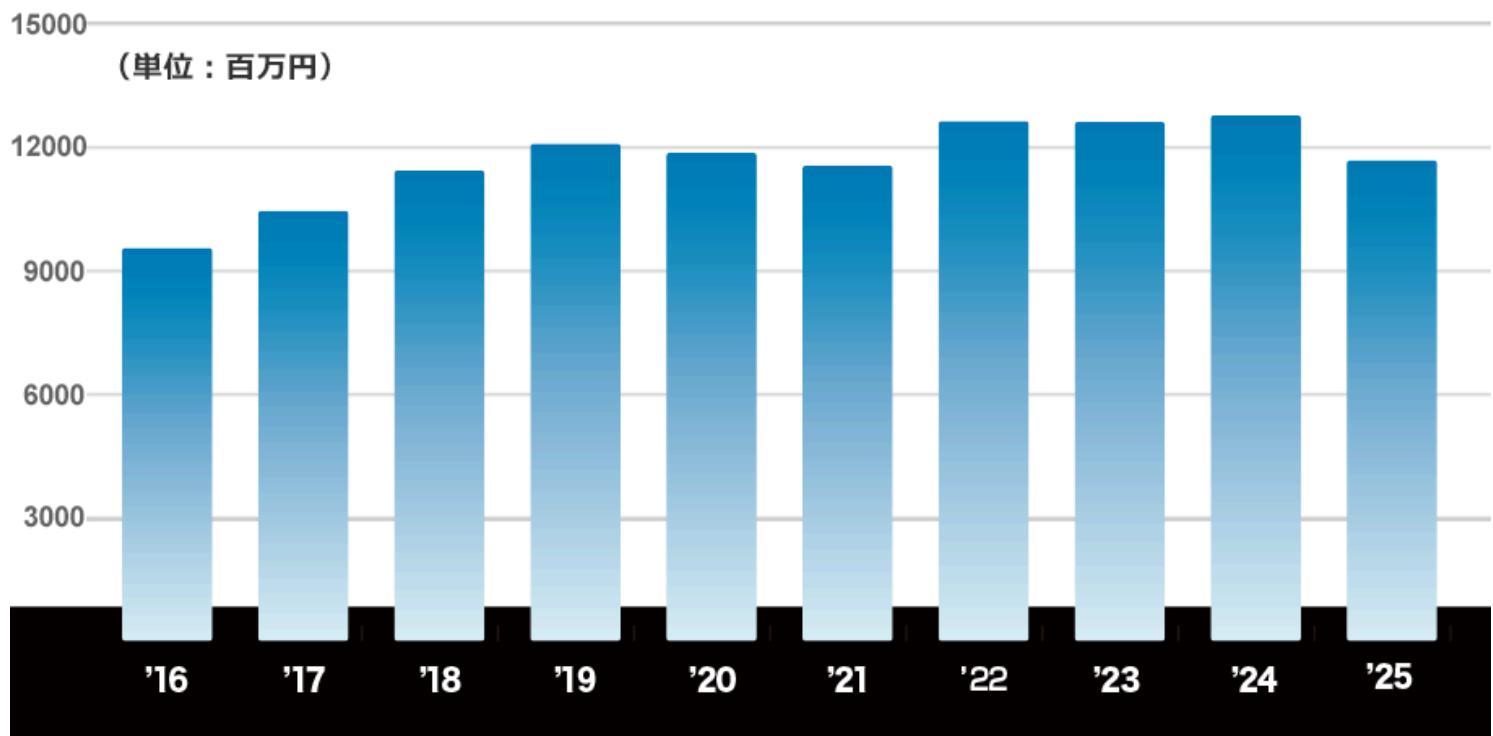


社員数推移

(単位:人)



売上実績推移



2016年1月期	9,526,000	2021年1月期	11,489,000
2017年1月期	10,372,000	2022年1月期	12,566,000
2018年1月期	11,380,000	2023年1月期	12,546,000
2019年1月期	12,020,000	2024年1月期	12,705,000
2020年1月期	11,800,000	2025年1月期	11,619,000

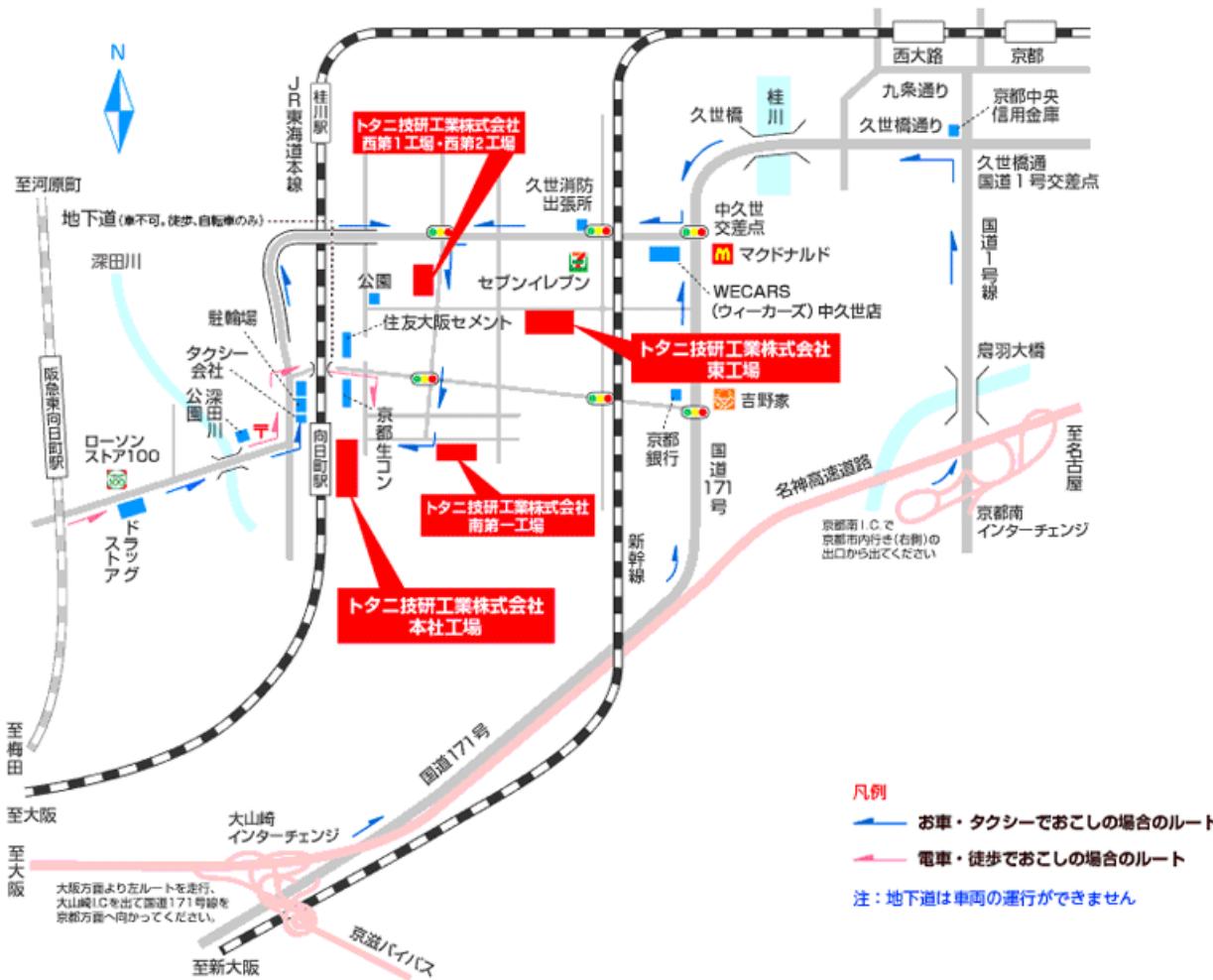
(単位：千円)

トタニ技研工業株式会社 特許保有件数

出願中特許	日本：13件 海外：44件 (アメリカ11、インド2、中国13、欧州18、PCT展開前0)
登録済特許	日本：71件 海外：123件(アメリカ41、カナダ7、タイ3、インド15、中国28、ブラジル3、韓国2、欧州24)

2025年1月現在

アクセスマップ



本社

(075) 933-7610

(075) 933-7602

技術サービス

(075) 933-7611 (直通)

(0120) 03-7616 (フリーダイヤル)

アクセスマップ

本社工場



〒601-8213
京都市南区久世中久世町5-81

(075)933-7610

(075)933-7602

西第1工場



〒601-8213
京都市南区久世中久世町5-15

西第2工場



〒601-8213
京都市南区久世中久世町5-15

南第1工場



〒601-8205
京都市南区久世殿城町106

東工場



〒601-8213
京都市南区久世中久世町4-44

(075)933-7610

(075)933-7602

個人情報保護基本方針

トタニ技研工業株式会社（以下、トタニという）は、日本国の個人情報保護法及び関係法令、各関連省庁の定めるガイドライン・指針、並びに弊社で定める個人情報保護管理規程等に基づき、弊社が保有する個人情報の取扱いを次のとおり定めます。

1. トタニは個人情報取扱いに関する基本方針を次のとおりとします。

- トタニが保有する個人情報は、弊社だけが利用することとします。
- 個人情報の利用目的を特定し、取得時には本人に告知するものとします。
- 個人情報の利用者の範囲を本人に告知し、必要に応じて同意を得ることとします。
- 個人情報を漏洩しない管理体制を徹底します。
- 個人情報を目的外に利用しません。
- 個人情報を不正に入手しません。

2. 個人情報の利用目的

トタニが取得する個人情報は、弊社が保有する製品・部品、サービス、技術、ノウハウ等を提供するために利用し、取得する場面において、利用目的をお知らせします。

<具体的な利用事例>

- トタニが取扱う製品や部品に関するご案内、ご提案をはじめとするトタニ製品に関する情報を提供する営業活動
- トタニ製品ユーザーの方への製品に関する試運転、メンテナンス、トレーニング等を提供するサービス活動

3. WEBサイトにおける情報の安全管理措置

- トタニは個人情報を厳重な管理体制のもとで管理・保管することとし、個人の情報が紛失・破壊・改ざんおよび第三者に漏洩することのないようセキュリティの強化に万全を期すよう努めます。
- トタニは個人情報をご提供いただく際、第三者による不正なアクセスに備えて、SSL(Secure Sockets Layer)による情報の暗号化などを施し、合理的な範囲内で安全性の確保に努めます。
- トタニは、セキュリティ施策を超えたハッキング等による不当な行為により、万一、個人および第三者に損害が生じた場合に責任を負うことはできません。

トタニ技研工業株式会社

京都市南区久世中久世町5-81

TEL:(075)933-7610 (代表) FAX: (075)933-7602 Email: 2007gad@totani.co.jp